

美学研究室の学び

第1部 研究をはじめる

- 01 卒論を書く意味
- 02 卒論への道
- 03 美学の問題を知る
- 04 学術雑誌をみる
- 05 分野を絞る
- 06 分野の通史を読む
- 07 分野の古典を読む
- 08 キーワードについて
- 09 キーワードを定める
- 10 問いを立てる
- 11 テーマを絞る
- 12 準備すること（テーマを決めるために）
- 13 考慮すること（テーマを決めるために）
- 14 題目を表明する
- 15 研究題目の例
- 16 計画表の作成

01 卒論を書く意味

専門分野の学びの中心となるのが、卒業論文の作成です。論文とは、信頼のおける知識を伝えるための、信頼のおける文章の形式です。そのため、論文においては、発言はすべて根拠づけられており、発言どうしが強く関連づけられていなければなりません。卒業論文を書く意味はいろいろあるでしょうが、大事だと思われるのは、知識をたんに得るだけでなく、皆さんみずから何らかの知識を生み出すことができるようになることです。論文を書くのは一回かぎりでも、生涯にわたって使える力となります。

02 卒論への道

1 回生のうちにしておくこと

幅広い読書によって研究分野を定める

分野の通史（概説書）をとおして研究テーマを考えてみる

美学史・美術史・映画史・写真史・工芸史・建築史 ...

2 回生 テーマを定める 3 回生 調べる 4 回生 仕上げる

A 計画

- ① 研究分野を決める
- ② 研究キーワードを決める
- ③ 研究題目を決める
- ④ 計画を立てる

↓↑

B 調査

- ① 作品を観察する ② 現場を調査する
- ③ 資料を収集する ④ 文献を読解する
- ⑤ 用語を吟味する ⑥ 意見を交換する

A 計画 と B 調査 を 行き来しながら進めます。

A 計画 と C 執筆 を 授業中に確認しあいます。

C 文章

- | | | |
|------|------|------|
| 2 回生 | 歴史解説 | 用語解説 |
| 3 回生 | 用語解説 | 論文序論 |
| 4 回生 | 論文序論 | 卒業論文 |

03 美学の問題を知る

美学は、哲学の一分野として、感性・美・芸術にかかわる問題について論じてきました。美学の研究室では、美学思想そのものを研究するのではなく、美学がこれまで取り組んできた問題を知ったうえで研究をおこないます。美学の研究室では、事実関係をただ調べるだけでなく、美学の議論をよりどころに、研究対象について思索をめぐらします。たとえば、装飾とは何か、庭園とは何か、衣服とは何か、写真とは何か、というように、ものの本質を問い直します。美学の問題について知るための簡単なやりかたは、美学事典やガイドの目次をみることです。模倣・創造・形式・作品・虚構・解釈・批評など、キーワードを一つ選び、複数の説明に目をとおして、各語をめぐって何が問われてきたのかを説明できるようになりましょう。

竹内敏雄編『美学事典 増補版』弘文堂, 1974.

今道友信編『講座美学 2 美学の主題』東京大学出版会, 1987.

佐々木健一『美学辞典』東京大学出版会, 1995.

小田部胤久『芸術の逆説 近代美学の成立』東京大学出版会, 2001.

Jerrold Levinson, ed. *The Oxford Handbook of Aesthetics*. Oxford University Press, 2003.

Gaut and Lopes, eds. *The Routledge Companion to Aesthetics*. 3rd ed. Routledge, 2013.

04 学術雑誌をみる

英語で書かれた、美学関係の学術雑誌に目を通して、自分の関心にひっかかる論文をひとつ選び出し、ざっと読んでみて、およそどんな内容なのかを他の人に紹介します。この作業をとおして、① 美学の研究について知り、② 学術雑誌の書かれかたに気づき、③ 洋雑誌を読むのに慣れます。最初のうちは、思想研究をするのではなく、自分の研究の前提となるような問題をあつかった哲学論文を見つけるようにしてください。研究室に雑誌のバックナンバーがありますので、できるかぎり多くのタイトルに目をとおしたうえで、読んでみようと思う論文をひとつ決めてください。グループで、論文の紹介をおこなったあと、学術論文とほかの文章のどこが違うかを確認し合うとともに、外国語文献を読むうえでの困難もしくはコツについて意見をかわしましょう。

British Journal of Aesthetics

Journal of Aesthetics and Art Criticism

05 分野を絞る

大学4年間のあいだで一つの分野の小さな専門家になりましょう。美学はたしかに分野の制約のない自由なところが良いのですが、大学で何を学んだのと問われて曖昧にしか答えられないのは残念です。知の世界は無限ですので、範囲を定めて学びましょう。以下を参考にして、一つに分野を決めて、この分野については人より詳しくなったと言えるようになりましょう。

大分野	小分野	研究キーワード
美学	環境美学	虚構 触覚 美的性質 美的経験
美術	現代アート	NFT メタバース 仮想共同体 農と食
映像	映像 映画 写真	戦争の表象 建築の表象 身体の表象
工芸	陶芸 漆芸 染織	工芸の美 前衛陶芸 手仕事 中量生産
デザイン	景観 衣服 製品	装飾 簡素さ 地域主義 未来

06 分野の通史を読む

分野を定めるためにも、分野を定めてからも、通史を読みましょう。陶芸史・映画史・写真史・建築史・服飾史などです。通史を読む理由はむしろ、通史で語られないことや、通史の誤りに気づくためです。そうしたところこそ、研究テーマとして意味をもちます。研究テーマをすでに定めている人は、歴史において自分が調べようとするものの意味について説明できないとなりません。現代の事柄について調べる人は、現代に至るまでの経緯について知っておきたいです。過去の事柄について調べる人は、現代の状況について知っておきたいです。複数の通史をあたって、一つの通史のあらましについて他の人に説明し、そのうえで、自分の関心がどのへんにあるのか説明してみましょう。

07 分野の古典を読む

古典とは、後の時代に大きな影響をあたえてきた本のことで、古典と呼ばれるものを先に読んでおけば、他のさまざまな思想がよく分かるようになります。だから、ものぐさな人こそ、時間をかけて古典を読んでみてはいかがでしょう。芸術理論の古典としては、アリストテレスの『詩学』が重要です。各分野において古典もしくは必読書とされている本があるはずです。概説書などをたよりに何が古典とみられているかをつきとめて、手にとって読んでみて、他の人にその感想を伝えましょう。

08 キーワードについて

美学研究室では、美学研究室では、哲学の一分野としての美学のほか、工芸やデザインにかかわるテーマの研究をおこなうことができます。ただしどのような研究においても、事実関係を明らかにするだけで満足するだけでなく、物事の本質をとらえて問い直していく「美学らしい」態度がもとめられます。絵画とは何か、映画とは何か、衣服とは何か、といった具合です。キーワードを設定して、問いを深めていく態度こそがあなたの「美学」です。

09 キーワードを定める

研究キーワードは、自分の問題関心を一言であらわした語です。たとえば、装飾・色彩・空間・表現・民藝・茶庭・身体といった語が、研究キーワードになりえます。ベンヤミンといった人物名や、サヴォワ邸といった作品名は、研究キーワードになりません。固有名は、問題関心そのものというよりも、問題関心を明らかにするための通り道とみるべきです。

研究キーワードについて検討する作業は、自分の研究に一本筋を通すために必要です。これがないと、何が言いたいのか分からない論文、一貫性に欠く論文になりがちです。研究キーワードはまた自分の問題関心を人に伝えるうえで役立ちます。私たちは短い時間のなかで自分の問題関心を人に伝えないといけない状況に置かれるので、一言で察してもらうのも大事です。

学び始めのうちは、問題関心はかなり漠然としているのが普通で、問題関心をうまくあらわす語がなかなか浮びません。そうした場合は、教員とよく相談したうえで、研究キーワードと一緒に考えましょう。研究の深まりとともに研究対象への理解も深まりますから、研究キーワードを自分で考え直すといよいでしょう。

10 問いを立てる

研究キーワードが問題関心をあらわす語ならば、研究キーワードには問いがともないます。一番の問いは、キーワードがあらわす事柄が一体何であるのかという問いです。たとえば、虚構とは何か、装飾とは何か、キーワードが前衛書であるならば、書とはそもそも何なのかという具合になるでしょう。問いの基本形を、以下にあげています。簡潔な問いを4つ立ててみましょう。研究を進めるなかで、問いを更新してゆきましょう。

本質をめぐる問い	虚構とは何なのか	虚構にはどんな種類があるか
意義をめぐる問い	虚構は本当に必要か	虚構はなぜ必要なのか
由来をめぐる問い	虚構はいつに始まったのか	虚構はいかに表現されたか
展望をめぐる問い	虚構はどうありうるか	虚構はどう使われるか

11 テーマを絞る

研究分野を決めて、研究キーワードを定めたら、研究テーマを絞ります。研究キーワードにあらわされる問題関心はそのままでは深まりませんので、独自の切り口が必要となります。問題関心への自分なりの取り組みかたが、研究テーマに反映されます。最初のうちは大きめでいいでしょう。勉強とともにテーマは絞り込まれます。卒論では、テーマを絞り込んで、1つの事柄について徹底して調べ上げ、徹底して考え抜きたいです。

ハイデガーの気分概念 → 建築空間における気分の問題
図案家としての浅井忠 → 京都高等工芸学校における浅井忠の図案教育
日本のバウハウス教育 → 山脇巖のデザイン教育における構成の理解

12 テーマを決めるためにすること

通史を読み通す： 研究したいテーマがある場合でも、分野の通史を読むことで、歴史のなかで自分の関心がどう位置づけられるのか考える機会になり、他にもっと良いテーマと出会うかもしれない。偶然の思いつきでなく、歴史をふまえて、自分のテーマを定めます。

学術雑誌をみる： 各分野の学術雑誌をながめるならば、自分の知らない研究に出会うでしょう。最近の研究動向を知ることできます。各学会のホームページで学術雑誌のバックナンバーのタイトルを閲覧できます。

教員と相談する： 最初は、教員と話し合っただけで仮テーマを決めるとよいでしょう。教員は、選択肢を多く持ち合わせており、最初にどんなテーマに取り組むならば有意義な勉強ができるか予想できるからです。仮テーマについて調べるなかで、自分のテーマを定めてゆきます。

通史の例

学術雑誌

小田部胤久『西洋美学史』
美術出版社のカラー版シリーズ

美学：Journal of Aesthetics and Art Criticism
美学：British Journal of Aesthetics
デザイン：Design Issues
デザイン：Journal of Design History

美学会『美学』
美術史学会『美術史』
表象文化論学会『表象』
日本映像学会『映像学』
意匠学会『デザイン理論』

13 テーマを決めるうえで考えること

① 好きや嫌いを超えよう：私たちは芸術を自分の趣味によって判断しがちですが、自分の好き嫌いにとらわれすぎると、自分の思い込みから抜け出せません。芸術をわざわざ学ぶのは、自分の趣味を超えて、芸術がもつ意味について考えるためでしょう。関心のないことをする必要はありませんが、好き嫌いとかいった自分本位の動機よりも、他人にいかにも有意義かを説明できるテーマが望まれます。

② 地道な歴史研究に取り組む：現在進行中のことを現場で活躍している人ほどに深く理解するためには、自分もなかに入って内側から見なければなりません。それでなければ、文学部の学生に向いているのは歴史資料にもとづく歴史研究です。各分野の通史をとおして読んで、現代にとって意味のありそうな話題を見つけるとよいでしょう。

③ 教員の専門に近いと良い勉強ができる：教員はけっして芸術のすべてに精通しているわけではありません。教員の得意分野にかかわる研究をすれば、良い指導を受けられます。教員はその分野について良いテーマについて知っているはずですし、どんなテーマに取り組んだら有意義な学びができるか助言できます。教員の授業はテーマ決めのヒントを得る良い機会です。

④ 洋物をするなら本気でしよう：海外の対象について論じるとき、実際にその作品を体験したり、原語で資料を読んだりするのが必須です。そうでないと二番煎じとなります。語学力を生かして海外の対象にぜひ取り組みましょう。たしかに、日本にかんするテーマならば実際の作品にあたるのも容易で、作家の手記などの1次資料にあたれますし、多くの基本文献を読めます。海外の人と交流を深めたい人はむしろ日本の文化について理解を深めるのもよいです。

⑤ 二つの領域を横断するテーマ：二つの文化領域を横断するテーマは、複数の角度から問題をとらえるうえで有効ですし、現代らしい意味をもちえます。二つの国のあいだで活動した人物に焦点をあてるのもよいでしょう。異なる芸術ジャンルに共通する原理を見出すのは、特定ジャンルに属さない美学らしいテーマです。三つ以上だと分かりにくくなります。

⑥ 問題関心からテーマを立てる：好きな作家について調べてもいいですが、問題関心にもとづいて研究キーワードを定めたうえで、自分の定めた問いについて正面から論じるようなテーマを設定しましょう。自分の好きなことから出発してもいいですが、研究テーマとするからには、自分の好き嫌いを超えたところで問題を見つけて、問題について論じるような研究となるように心がけましょう。

⑦ メジャーすぎずマイナーすぎず：あるテーマについて検索したところ多くの本がヒットした場合、そのテーマについて調べる必要はないと言えます。他人が調べたことの受け売りに終わる恐れがあるからです。ただし、学び始めの人は、幾らかでも位置づけがなされている事柄から始めたほうが、基礎知識をつけるのにいいかもしれません。知られていることの知られていない部分に注目するのはよいかもしれません。

14 題目を表明する

研究テーマはかならず研究題目すなわちタイトルとして表します。例えば「イサムノグチの空間造形について－現象学からの考察」とする場合には、「空間造形」が研究キーワードすなわち自分の問題関心をあらわす部分です。一見すると「イサムノグチ」が論文の主眼になっているようにも見えますが、この部分はむしろ自分の問題関心を深めるための具体例とみるべきです。副題の「現象学からの考察」は、自分の問題関心にたいする方法論です。副題はもう一つの切り口であるので本題で言い尽くされていれば省くこともできます。

XXX の YYY について－ZZZ の観点からの考察

XXX：自分の問題関心を深めるための具体例

YYY：研究キーワード＝自分の問題関心

ZZZ：自分の問題関心を深めるための方法論

研究題目を先に決めておくと、構想もまとまりやすく、計画も立てやすくなります。しっくりこなくなったら変えればいだけの話です。題目はまた他の人があなたの取り組みを知るうえでも欠かせません。題目をとりあえずでも始めに決めてから研究に取りかかります。

15 研究題目の例

研究分野	研究キーワード	研究題目
美学	創造	集団創造をめぐる議論
美学	虚構	フィクションとは何か
美学	人工知能	人工知能による芸術創作
美学	深層学習	人工知能は美を学べるか
美学	クオリア	機械は色を感じているのか
美学	日常美学	日常生活における美的経験
美学	音の触感	ASMR の聴体験における触感
美学	食感	食感の多様さと分類
美学	自然美	人新世における自然美の定義
美学	生命倫理	バイオアートと生命倫理

研究分野	研究キーワード	研究題目
映像	雰囲気	風景写真の雰囲気
映像	ディストピア	未来映画とディストピア
映像	仮想身体	映像メディアと仮想身体
映像	仮想空間	映像メディアと仮想空間
工芸（民藝）	工芸の美	柳宗悦における美の説明
工芸（陶芸）	手仕事	現代陶芸と手仕事の意味
工芸（漆芸）	蒔絵	現代テクノロジーと蒔絵
工芸（染織）	絣 かすり	沖縄における絣の伝統とその継承
デザイン	装飾	工業製品における装飾の機能
デザイン	装飾史	装飾史の方法をめぐる考察
デザイン	簡素さ	日本文化とミニマリズムの理解
デザイン	評価	グッドデザイン賞の歴史
デザイン	公園	19世紀西欧における都市公園の建設
デザイン	田園都市	ハワードと田園都市の思想
デザイン	産業遺産	産業遺産を利用した景観デザイン
デザイン	地域主義	建築における地域主義の系譜
デザイン	土着性	現代建築にみる新しい土着性
デザイン	労働	モリスの社会主義思想における労働観
デザイン	参加	社会デザインにおける参加の意味
デザイン	未来	思弁デザインにおける未来の理解
デザイン	食の未来	3Dフードプリンターの可能性
デザイン	批評	ファッション批評の歴史
デザイン	書体	黎明期かな書体の復刻

16 計画表の作成

本をなんとなく読んでも散漫になりがちで、まとまった考えに到達しません。資料をあてずっぽうに集めても、徒労に終わります。悠長に構えすぎていると時間が足りません。早い段階から、卒論の目次のかたちで卒論の計画をつくります。もちろん、作業のなかで計画はたえず変更されます。研究報告のたびに提示してください。研究を始めたばかりの人は、研究キーワードの用語解説を書くつもりで、研究キーワードを理解する上で知っておくべき事項をあげるのでもかまいません。以下のように併記すると分かりやすいです。授業ではつねに計画表をもってきて他の人にいつでも見せられるようにしてください。

卒業論文		用語解説
前衛書における筆触の問題		書
はじめに	●————●	定義 伝統書 前衛書
第一章 書とは何か		書の条件
筆と紙と墨	●————●	筆は…
文字	●————●	紙は…
書くこと	●————●	墨は…
第二章 筆触の様態		文字
起筆	●————●	鑿で彫られた文字 書体
送筆	●————●	筆で書かれた文字 書体
終筆	●————●	書くこと
第三章 筆触の問題		かくことについて 欠く・搔く・描く・搔く
筆への問い	●————●	筆触
紙への問い	●————●	筆触の意味
文字からの解放	●————●	起筆・送筆・終筆 前衛書の筆触
むすびに		